

鉄軌道輸送の安全に関わる情報(平成 28 年度)

〔概要版〕

1. 運転事故

○平成 28 年度に発生した運転事故は、件数が 715 件で対前年度 12 件減、死亡者数が 308 人で同 22 人増でした。(表1参照)

○乗客の死亡事故は、ありませんでした。

表 1 : 運転事故の件数及び死傷者数(平成 28 年度)

	件 数 (対前年度)	死亡者数 ^{※6} (対前年度)	負傷者数 ^{※6} (対前年度)
列車事故 ^{※1}	19 件 (+ 9 件)	1 人 (+ 1 人)	8 人 (△11 人)
踏切事故 ^{※2}	223 件 (△13 件)	97 人 (△ 4 人)	93 人 (+31 人)
うち踏切障害に伴う 列車事故 ^{※3}	1 件 (+ 1 件)	1 人 (+ 1 人)	3 人 (+ 3 人)
道路障害事故 ^{※4}	43 件 (△20 件)	0 人 (± 0 人)	17 人 (△ 6 人)
人身障害事故 ^{※5}	429 件 (+13 件)	211 人 (+26 人)	222 人 (△13 人)
うち線路内立入り等による 列車との接触	230 件 (+23 件)	182 人 (+28 人)	49 人 (△ 7 人)
うちホームでの 列車との接触	187 件 (△11 件)	28 人 (± 0 人)	160 人 (△10 人)
物 損 事 故	2 件 (± 0 件)		
合 計	715 件 (△12 件)	308 人 (+22 人)	337 人 (△ 2 人)

※1 「列車事故」とは、列車衝突事故(軌道における車両衝突事故を含む。)、列車脱線事故(軌道における車両脱線事故を含む。)及び列車火災事故(軌道における車両火災事故を含む。)をいいます。

※2 「踏切事故」とは、踏切障害に伴う列車事故と踏切障害事故をいいます。

※3 「踏切障害に伴う列車事故」の件数等は、踏切事故の内数であり、列車事故にも重複して計上されています。合計の件数等は、この重複を除いたものです。

※4 「道路障害事故」とは、踏切道以外の道路において、列車又は車両が道路を通行する人又は車両等と衝突し、又は接触した事故をいいます。例えば、走行中の路面電車に自動車接触した事故等が該当します。

※5 「人身障害事故」とは、列車又は車両の運転により人の死傷を生じた事故(列車事故、踏切障害事故、道路障害事故を除く)をいいます。

※6 運転事故による死傷者数には、自殺によるものは含めないこととしています。また、自殺の行為に直接的に巻き込まれたことにより第三者が死傷した場合についても、同様な扱いとしています。例えば、ホームからの飛び込み自殺により、ホームにいた第三者が巻き込まれるなどといった場合が該当します。

図1：運転事故の件数及び死傷者数の推移

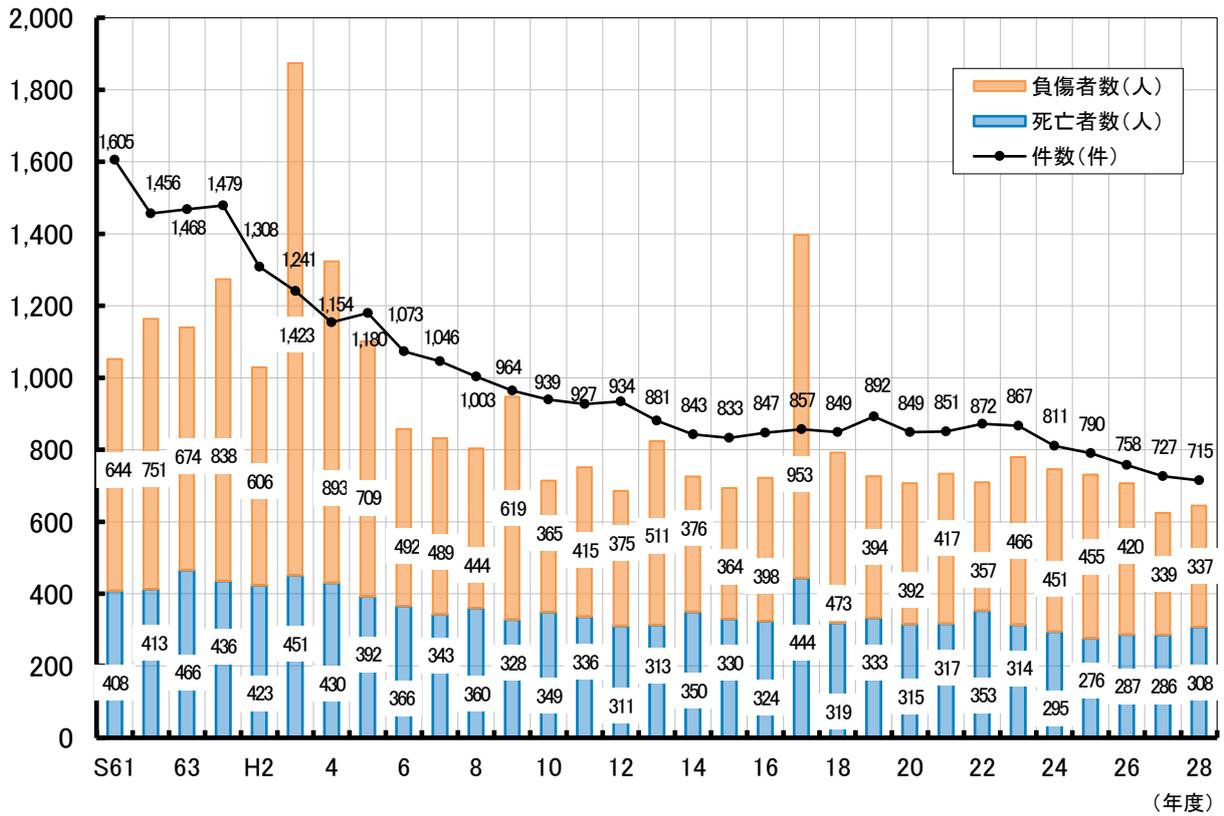
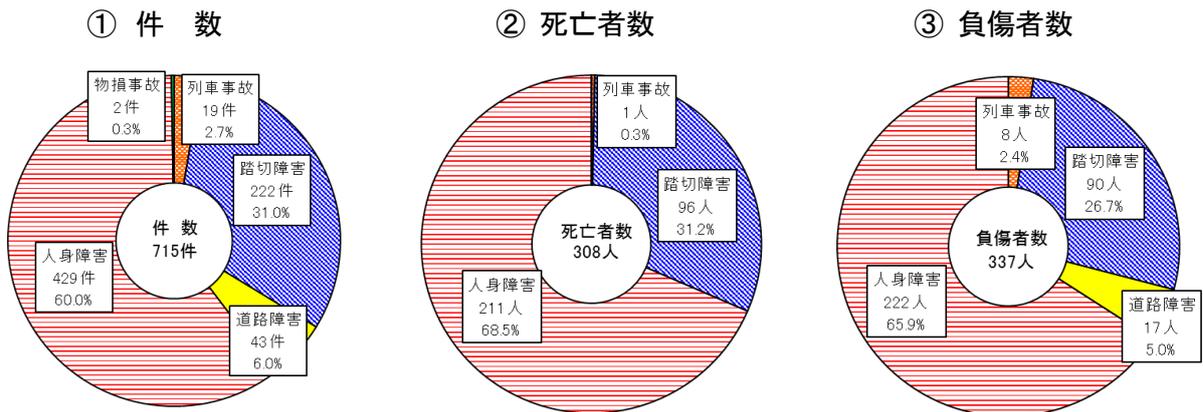


図2：運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成28年度)



2. 踏切事故

○平成28年度に発生した踏切事故は、件数が223件で対前年度13件減、死亡者数が97人で対前年度4人減でした。(表1参照)

○自動車等の直前横断による踏切事故は、件数が126件(対前年度7件減)で、踏切事故全体の56.5%となっています。

図3: 踏切事故の件数及び死傷者数の推移

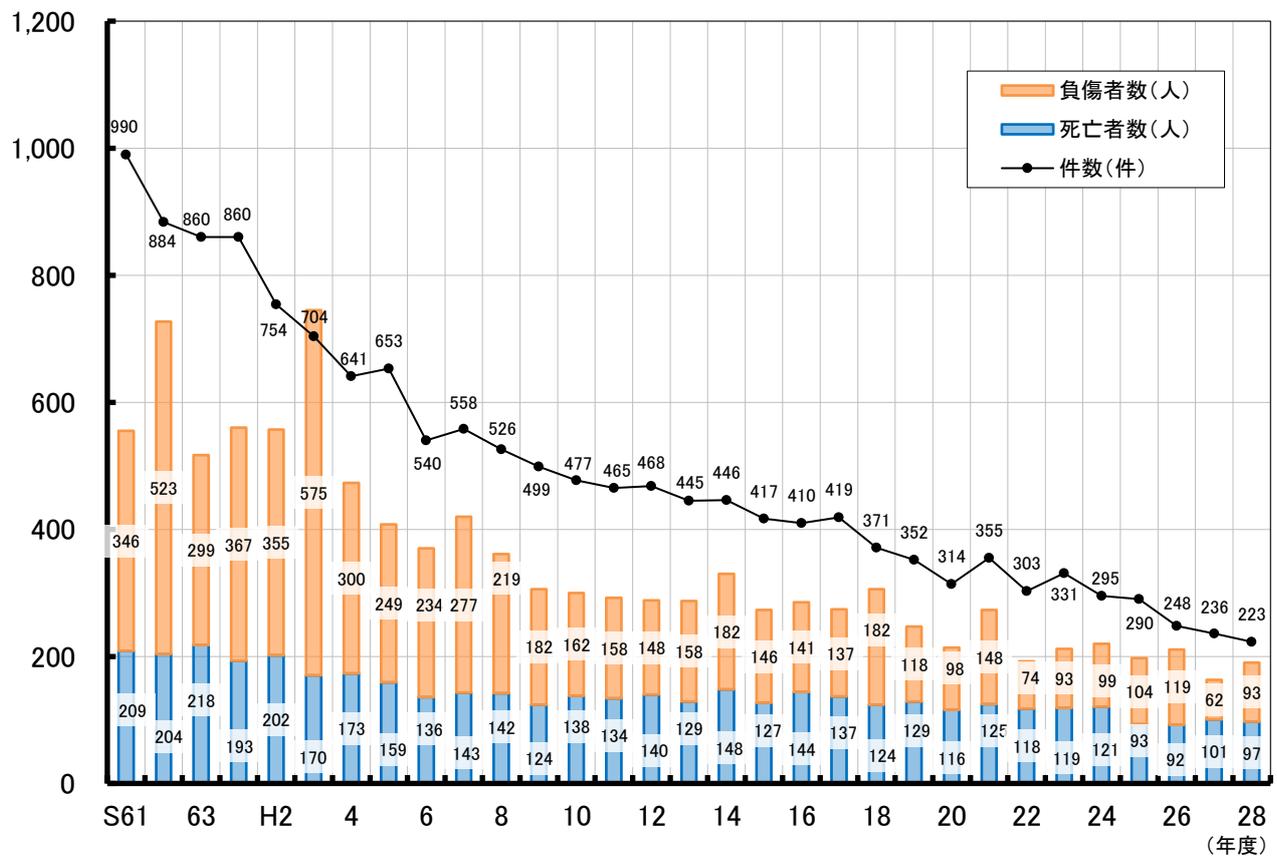
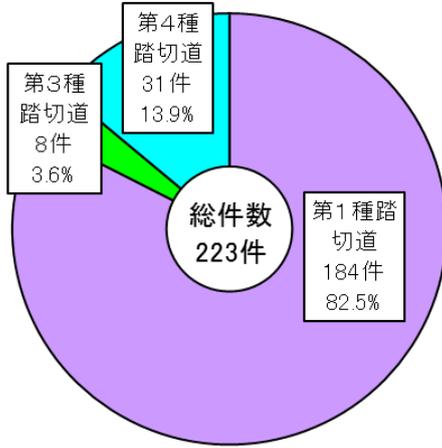
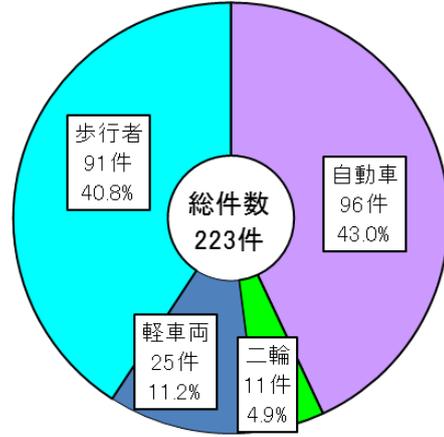


図4 踏切事故の発生状況(平成28年度)

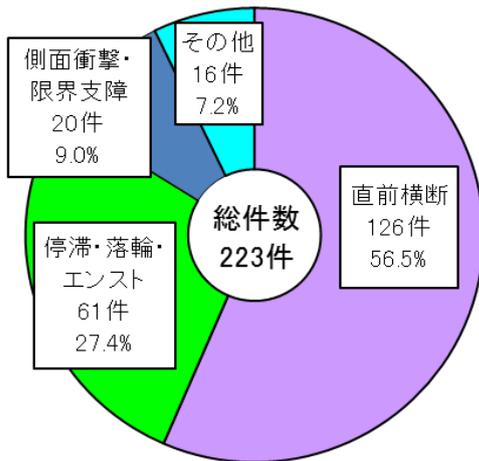
① 踏切種別別



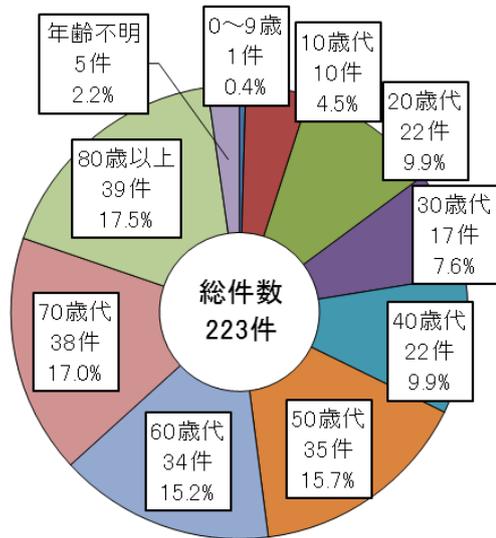
② 衝撃物別



③ 原因別



④ 関係者年齢別



3. 人身障害事故

- 平成28年度に発生した人身障害事故は、件数が429件で対前年度13件増、死亡者数が211人で対前年度26人増でした。(表1参照)
- 線路内立入り等での接触による人身障害事故は、件数が230件で対前年度23件増、死亡者数が182人で対前年度28人増となっています。
- 「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」を合わせた「ホームでの接触」による人身障害事故は、件数が187件で対前年度11件減、死亡者数が28人で対前年度増減なしでした。

図5: 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移

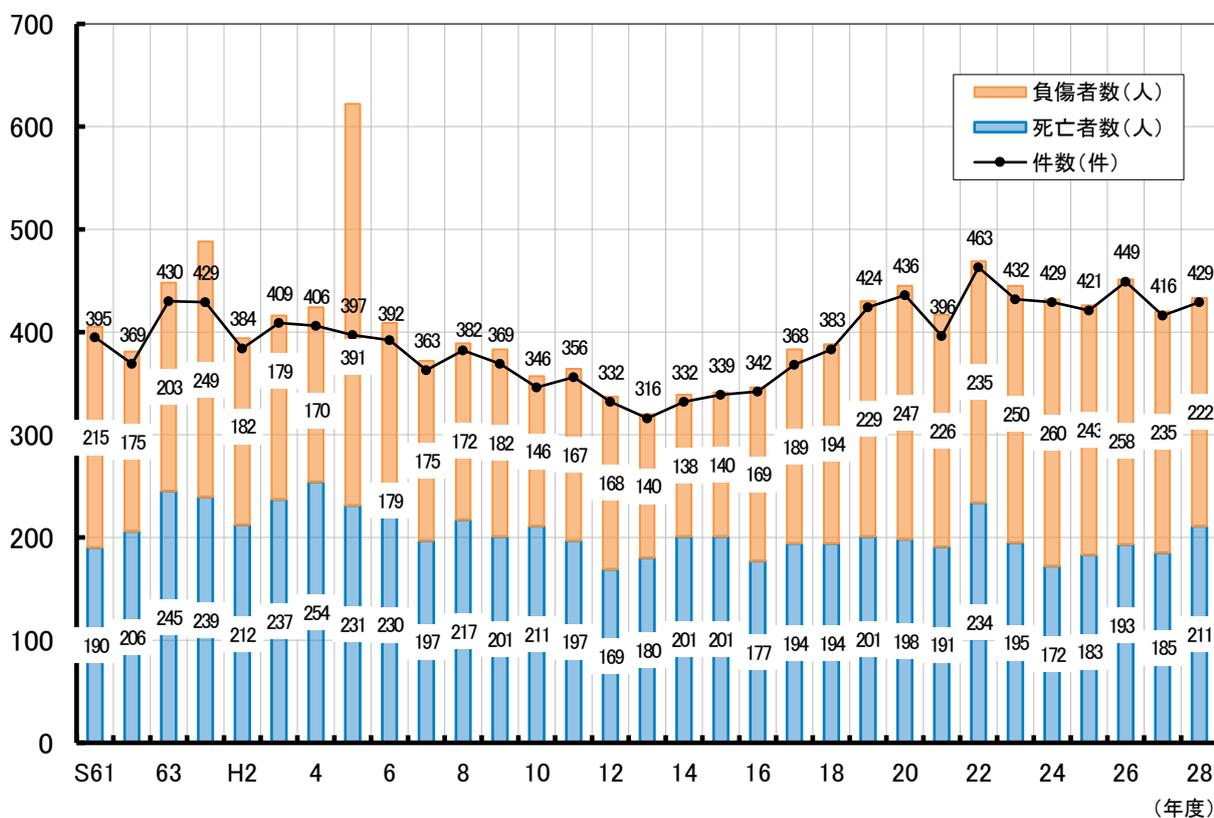


図6：人身障害事故の原因等別の件数及び死傷者数(平成28年度)

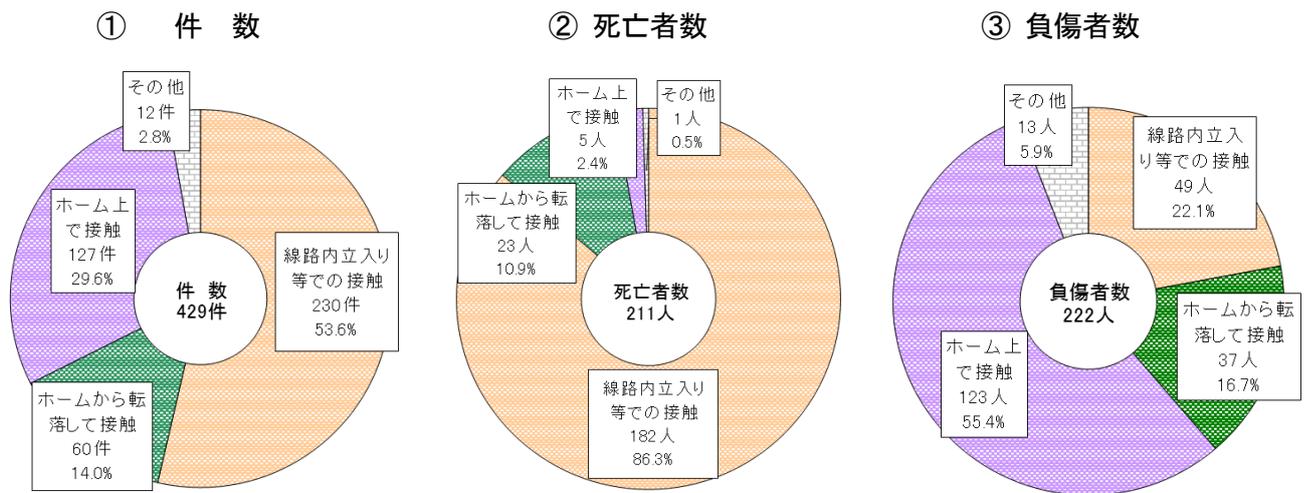
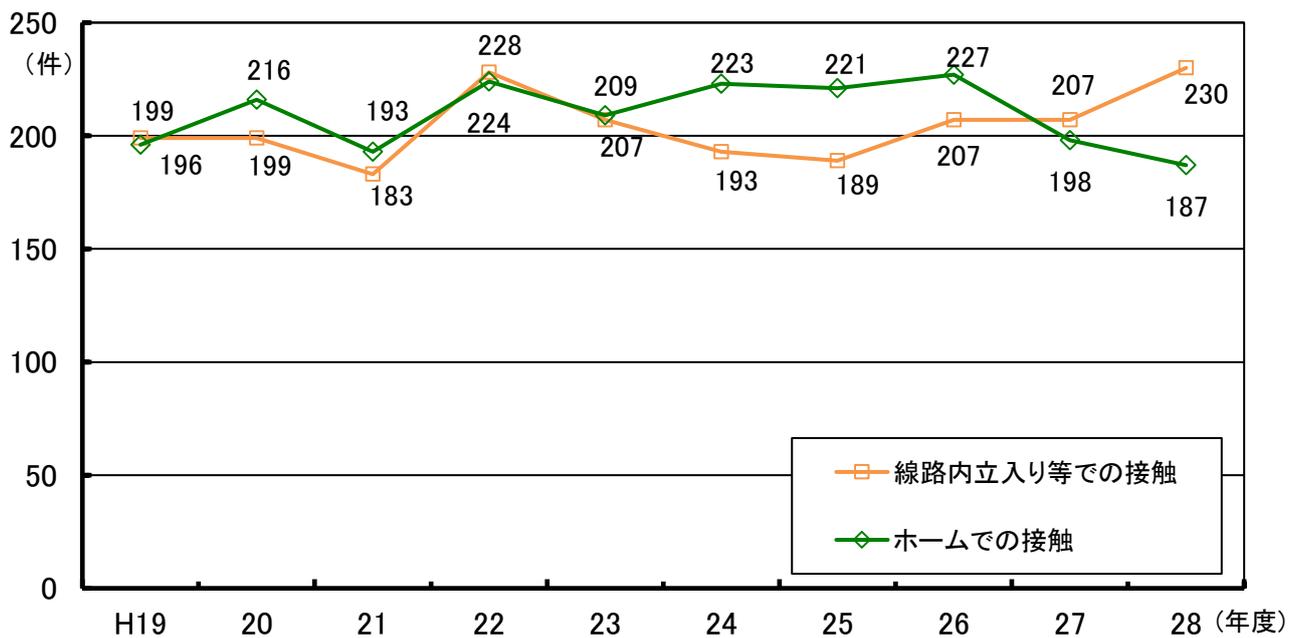


図7：ホームでの接触及び線路内立入り等での接触による人身障害事故件数の推移



4. 輸送障害

- 平成28年度に発生した輸送障害(列車の運休、旅客列車の30分以上の遅延等)は5,325件で対前年度592件増でした。(図8参照)
- 鉄道係員、車両又は鉄道施設等に起因する輸送障害(部内原因)は、1,378件(25.9%)で対前年度52件減でした。
- 線路内立入り等による輸送障害(部外原因)は、2,324件(43.6%)で対前年度307件増でした。
- 風水害、雪害、地震等の自然災害による輸送障害(災害原因)は、1,623件(30.5%)で対前年度337件増でした。

図8：輸送障害件数の推移

